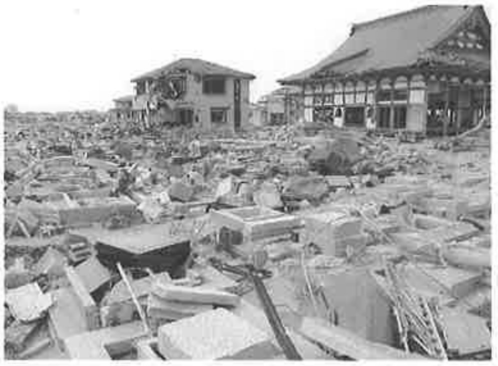
被災墓地の復興計画

名取市の3ヵ寺で進む墓地整備事業

有限会社石伸

宮城県名取市は仙台市の南に位置しており、太平洋にも面している。海側の閖上地区は東日本大震災による津波で大きな被害を受けた地域だ。復旧・復興作業が今なお行なわれているが、同地区において現在3ヵ寺2ヵ所の墓地の整備が進められている。この墓地整備事業に深く関わっている有限会社石伸（宮城県岩沼市）の大木隆専務に、これまでの経緯と現状について話を聞いた。


震災直後、津波もあり大きな被害を受けた寺院墓地の様子

「東日本大震災発生から2年目の2013年に墓地を整備しようという話が出ました。その時にお寺さまが不安だったのは『どれくらいの予算があれば復興できるのか』ということと『檀家さんが離れてしまわないか』ということでした。

㈲石伸・大本隆専務

そこで、私どものほうで墓地復興計画を提案させていただき、ある程度の予算枠も提示いたしました。また、檀家さんに対しては安心していただけるように、定期的に説明会を開きました。予算を組むにあたっては檀家さんの意向を確認する必要もありましたので、アンケートもお手伝いさせていただきました」。

同社が墓地復興計画に関わる端緒となったのはさらに2011年8月まで遡る。大震災で亡くなった方々の慰霊のために「送り火供養」をボランティアで行なったことが機縁になったという。

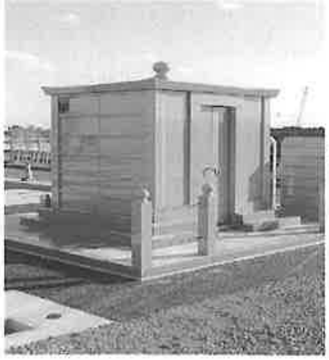
「名取市の閖上地区では九百何十人という方々が亡くなりました。そこで大震災の年の8月に送り火供養を企画しまして、キャンドル・ジュンさんにも快く協力していただいて行なうことができました。六百名ほどの参加者になったと思います。それによってお寺さまとのご縁ができ、墓地復興計画の起点となりました」。

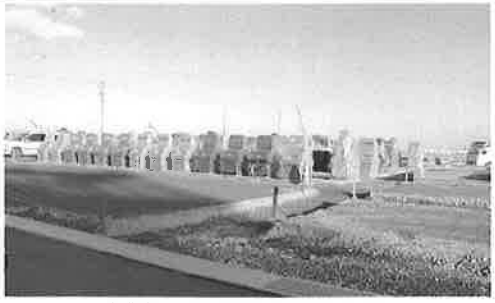
3ヵ寺は曹洞宗の寺院が1ヵ寺、真言宗の寺院が2ヵ寺である。真言宗の2ヵ寺は墓地を合併しての整備になった。被災前と同面積での整備であるが、5mほどの盛り土がなされることになったという。

全国石材施工協会が協力

「その盛り土の際に、行政の説明では石塔は適切に処分し、それ以外の外柵は粉砕をしてその場に埋められることになりました。問題なのはご遺骨でした。お墓の所有者はそれぞれにご遺骨を取り出してはいましたが、素人ですから取り切れていないわけです。

ゼネコンもどうしていいかわからないということで、私どもで『必要なのは作業ではなく供養ですから、我々石材店でご遺骨の収集をさせていただきたい』と申し入れをしました。結果的に3トン半の遺骨を収集することになりました。その時に協力していただいたのが井比宏育さん（一般社団法人全国石材施工協会・代表理事）でした」。

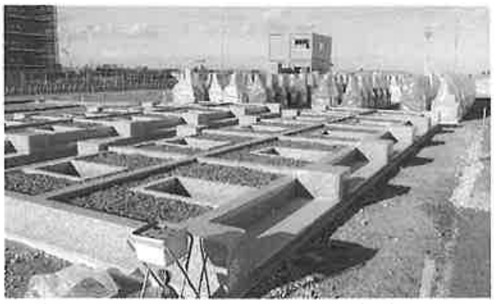

墓地内には永代供養墓も併設


完成墓石が並ぶ区画も設けられている

収集した遺骨は、新たに整備される墓地に併設される永代供養墓に納められる予定になっている。

同社では使用者の経済的負担にならないような区画面積や墓石のタイプも提案した。各墓地で3～4タイプの墓所を用意したとのこと。

「苦労したのは、まず土地の形状が行政によってなかなか定まらなかったことです。図面を何度も引き直す必要がありました。また大きな復興プロジェクトに組み込まれていましたので、行政やゼネコンさんとの関係にも配慮する必要がありました。それから、一件一件のお施主さんとのご契約にあたっては、被災されて遠方にいる方も多いので、どうしても時間がかかってしまいます。

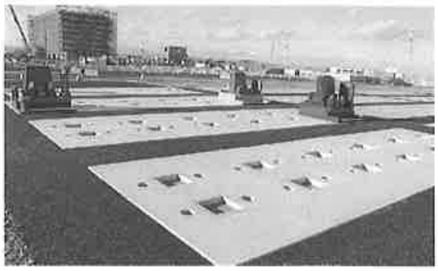

早く納骨したいという希望者も多く、急ピッチで工事が進められている

全国石材施工協会による協力のもと工事が進められている

さらに苦労している点を挙げるとすれば、人手の問題になるでしょうか。大震災からかなり時間も経過していますので、早く納骨したいという希望を持つ方が多く、基礎工事も急ピッチで対応する必要があります。井比さんにはご遺骨の収集時から手伝っていただきましたが、基礎工事や建墓工事でも一般社団法人全国石材施工協会さんに協力していただいています」。

現在整備中の墓地を見学させていただいたが、墓地として最終的な形が整うには年内いっぱいかかるのではないかとのこと。それでもすぐに納骨できる完成墓石が並ぶ区画などはすでに出来上がっている。

ここまで辿り着くには多くの苦労があったと思われるが、遺骨の取り扱いや区画の抽選方法なども含め、以前に千基ほどの墓地移転を経験した時のノウハウが活かされたと大本氏。今回の経験もまた次に活かされるに違いない。


区画面積や墓石タイプなどが異なる3～4タイプの墓所を用意

2ヵ所の墓地が隣接する広大な敷地面積ゆえに墓地として最終的な形が整うには年内いっぱいかかることが予想されている

www.PLUSDIA.net
石材工具プラス　検索
ネットショップ
プラスダイヤ株式会社

充実の加工設備・システム・技術で
あらゆる文字彫刻に対応

高さ 3mの彫刻室
縦幅の大きい記念碑にも対応

自動サンドブラスト
効率的な作業で納期厳守を徹底

フォトレジストシステム
小さな文字・写真も彫刻できます

※（株）ビコムの全書体（約30書体）を揃えています。

JPC会加工部メンバー
有限会社　水越字彫工業
茨城県桜川市羽田 952-2
TEL：0296-58-7801
FAX：0296-58-7802

OCHIHISA GROUP
大島石の越智久
熟練の石職人から
次の世代へ
TEL 0897-86-2541 / FAX 0897-86-3158
http://ochihisa.com/